



【上】イチゴ大福体験教室。土日祝日は満員である。  
【右】「のんびり学習牧場」の羊とのふれあい体験。



## ● 金丸弘美

かなまる・ひろみ／食環境ジャーナリスト。1952年生まれ。執筆活動のほか食のアドバイザー事業を手がける。著書に『ゆらし島のスローライフ』(学研)、『創造的な食育ワークショップ』(岩波書店)、『田舎力 ヒト・夢・カネが集まる5つの法則』(NHK生活人新書)など多数。

### 3 三重県伊賀市

## 「モクモク手づくりファーム」

三重伊賀市の山間地にある「モクモク手づくりファーム」は、農産物加工工房を始め、レストラン、食の体験教室、農産物直売所、コテージなどをもつ農村複合施設。年間50万人を集め、売り上げは47億円。通販だけでも年間10億円を販売する。

山村にもかかわらず多くの親子が買い物に詰めかける。最近では、中学校、小学校の修学旅行生が年間500校もやってくる。ファーム内にあるウインナーやイチゴ大福、豚まんづくりなどの体験教室で食の講座を受けられるためである。人気の背景にはソフト事業への人とお金の投資がある。基本となるレ

ストラップや加工食品の技術を学ぶために先進地や海外まで研修に従業員がおもむくというのはもちろんだが、園内には食育や体験教室の専任チームがあり、食の現場から学んでもらいファンづくりをするという体制が敷かれている。

「ジャージ牧場でのアイスクリーム作り、イチゴ、ブルーベリー摘み、田んぼの体験など年間200本ほど実施しています」と言うのは食育学習チームキャプテンの小松浩也さん。これらの食育活動は、3万8000世帯が入会している会員向けを中心に年間企画されている。

たんに作物を収穫するのではなく花卉を数えたり、イチゴの品種を知ったり、農家の作物作りの話を聞いたり、クイズをしたりと、学習がセットになっている。そのため観察シートも作成されている。また春夏にはキャンプと体験を組み込んだものが実施されたり、1年間8回の田んぼの田植えから収穫まで学ぶ講座も設けられている。

園内には「のんびり学習牧場」があり、牛、ポニー、ヤギなどが飼われ、乳搾りや餌やりなどの体験ができる。週末や夏休みには紙芝居、工作教室なども開催されている。

体験教室のチームは4名。ウインナー、イチゴ大福、豚まん作りなどを行っている。いちばん最初に実施されてファンづくりと収益の大きな柱となったのがウインナー体験教室。大人1人1500円、子供1人1400円。年間10万人が参加する。

これらの体験教室をフォローするように、園内の展示物にもさまざまな学習機能がほどこされている。たとえば直売所には年間の旬のカレンダー、生産者の顔写真からプロフィールや野菜づくりの経過までが紹介されている。田んぼのそばには、トンボやヤゴなどの田んぼの生き物が絵で掲示され、絵をあけると名前がわかるクイズがあったり、コテージに泊まると部屋の消費電気がわかるようになっていたり、環境と食のなりたちが体験を通して理解できるようにになっているのだ。

「今、食のことがあまりにわからなくなっている。だから食を伝えることが必要。僕らは事業と運動をバランスをとりながらやっている。ただ物を売るだけでは安さのみに流れてしまう。大切なのはファンづくりです」と吉田修専務。食育を明確なマーケティングの手法と位置付けているのである。